



記

者

手帳

産業廃棄物や事業活動から発生する再

って、大手資本をバ
ックに持つ業者が
次々と自らの処理施
設を拡充していった
のが業界の大競争時
代、再編の第一章だ
とすると、現在進行
しているのは事業縮
む。周辺の中堅業者
も、否応なくコスト
削減などの対抗策を
講じざるを得ない。
専門分野の最大手が
大手資本系列の傘下
に入ったかと思え
ば、その業者がさら
に再生利用や再資源
化の分野では、再編
の要因として「メー
カーや需要家から
の安定品質・大量
需要」に応えるた
めということが加

業界再編、第二章突入

生資源の量が減少す
る一方で、許可業者
件数は依然として多
く、産業廃棄物処理
施設の処理能力が大
きくなったと言われ
て久しい。

2000年代に入

小や撤退・廃業、事
業譲渡や企業買収
(M&A)という第
二章だ。
大手資本系列の業
者が安値攻勢を進め
たが、自らが利益縮
小や原価割れに苦し
に地方の有力業者を
買収する。
目立つのは焼却処
理の分野だが、建設
系廃棄物やRPF、
プラスチック再生利
用などさまざまな分
野で再編の動きが進
「業界大手と言え
ど、とても1社で対
応できる量ではな
い。もはやけんかを
している段階ではな
い(東日本のリサイ
クル業者) (中)